

# JS研修 みずのわ

vol.49  
2016



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

# も く じ

みずのわ 49号

## ◆ 巻 頭 言

「交流の場としての研修センター」

日本下水道事業団 理 事 畑田 正憲 1

## ◆ ご挨拶

今こそ JS 研修で人材育成を

研修センター 所 長 花輪 健二 2

## ◆ 研修生の声

下水道事業団研修に参加して 伊 藤 理 恵 高知県土木部公園下水道課 3

受益者負担金研修で得たもの 鮑 田 智 巳 長野市上下水道局営業課  
負担金担当 4

管きょ設計Ⅱを受講して 前 成 清 二 兵庫県まちづくり技術センター  
淡路事務所 5

工事管理Ⅱを受講して 渡眞利 幸 樹 北谷町建設経済部都市計画課  
下水道係 7

気合は続く「処理場設計Ⅱ」研修 貞 弘 耕 司 周南市 下水道施設課 9

## ◆ 同窓会ニュース

新たな輪「宮山福会」 梁 川 秀 幸 宮城県松島町建設課  
建設班長 10

くまもとでみずのわ、広がるモン！（熊本会） 太 田 ひとみ 熊本市上下水道局  
計画調整課 11

広島「水サミット」に参加して 瀧 本 利 彦 廿日市市環境産業部  
次長 13

「福岡みずのわ会」ってなんしょーと 岩 瀬 広 継 福岡市道路下水道局建設部  
中部下水道課 15

関東みずのわ会の“OKH” 相 原 健 一 (前)大和市環境農政部  
参事 16

## ◆ 研修特別講義

特別講義体験記 木 原 宗 道 福岡県下水道管理センター  
理事長 18

～意気を感じる下水道・特別講義体験記～ 酒 巻 和 彦 公益財団法人 埼玉県下水道公社  
理事長 20

## ◆ 講師 OB

事業団研修センター講師を通して 片 柳 栄 元 佐野市 22

研修センターOBとして思い出と近況報告 粕 谷 直 樹 埼玉県下水道局下水道管理課  
(前研修センター准教授) 企画・管理担当主査 24

◆ 新任教官の紹介 内笹井 徹 研修センター調査役兼教授 25

佐々木 健太郎 研修センター 准教授 26

◆ 平成28年度 研修実施計画について 27

◆ 研修センターのあゆみ 29

〈表紙の写真〉 彩湖と富士山

晴れた日に研修センターから西側の荒川の調整池・彩湖越しに富士山が見えます。

撮影地：研修センター管理本館屋上 撮影者：研修センター専任講師 長澤 不二夫

『みずのわ』の名前の由来・・・

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつて生まれるように、との期待を託したものです。

## 巻頭言

## 「交流の場としての研修センター」

日本下水道事業団 理事  
畑田 正憲

日頃より日本下水道事業団の研修事業にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。昨年11月に研修・国際及び西日本担当理事に着任しました。今後ともよろしくお願ひ致します。

平成26年度の運営補助金廃止に伴い、研修受講料の大幅な値上げを行わざるを得ない状況となりましたが、平成26年度は戸田で行う研修や地方で開催する研修など合わせて2,164名、今年度は2,294名（H27.12見込み）と平成25年度に比べて7割を超える方々にご参加頂きました。改めてお礼申し上げます。

さて、研修事業は下水道技術者の養成を目的として下水道事業団の設立とほぼ同時に始まり、研修コースも下水道を整備、普及するための技術から、維持管理や経営、老朽化対策、省エネ・創エネなど幅広いニーズに合わせて展開してまいりましたが、これまでに6万人を超える多くの研修生の皆様に活用いただきました。そして、その研修成果は、時代のニーズに応じた技術として、また、研修生同士の情報交換を通じ、それぞれの都市での下水道事業に活かされてきたことと思います。

さらに、その知識、技術を次の世代の技術者へと伝えていただくため、各都市から研修講師をお迎えし研修を支えていただくこともあり、まさに、下水道に携わる人と人の交流を基盤とした技術承継システムが、下水道事業団の研修を支えていると言っても過言ではありません。

知識経営の生みの親ともいわれる野中郁次郎氏（一橋大学名誉教授）は、「21世紀は知識社会となり、最も重要な資源は知識である。」とし、「知（知識）とはあらかじめ形式的に与えられているのではなく、人と人との関係性の中で主体的につくり出されるものだ。」とおっしゃられています。

また、知は人と人が触れ合う「場」を通じて、自分の持っている主観が人々との相互作用を通して共感し合い、説得し合い、概念化し、実現する。その過程では、人の想いや未来、社会のために何をするかといった価値観が、共感を生み新しい知識を生み出していくと解説されています。

研修をより良くするため、ニーズに合ったコースの企画、テキストや研修機材を充実することはもとより、人と人が交流する「場」をより強く意識して、活発な連携を育み、新たな知識を創造し、実践につなげるための取組みを充実させてまいりたいと考えています。

## ご挨拶

## 今こそ JS 研修で人材育成を

研修センター 所長  
花輪 健二

日頃より日本下水道事業団（JS）の研修をご活用いただき、誠にありがとうございます。  
ございます。

平成 27 年度の研修実施状況は前年度実績を上回り、お客様である地方公共  
団体及び民間企業から多くの皆さまにご参加いただきましたこと、重ねてお礼  
申し上げます。

平成 28 年度も、下水道担当者の養成訓練を通じ、引き続きお客様の要望に  
応えてまいりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

さて、下水道を巡る様々な動きの中で、今、人材育成が大きなテーマとなっ  
ています。

地方公共団体では、これまで建設した下水道資産の機能を今後とも維持するため、厳しい財政状況の  
下で施設の更新を行っていかねばなりません。また、施設管理の担い手となる職員は、下水道に習  
熟した団塊世代が退職し、後任となる担当者の育成が急務となっています。しかし、人員削減等により  
組織の職員数が減少する中、これまでのような現場での技術の継承は次第に難しくなっています。

このような状況に的確に対応していくためには、施設の建設、管理からサステナブルな下水道経営  
への環境変化にも柔軟に対応できるよう、職員の資質の一層の向上を図ることが必要となります。

これからの下水道経営に絶対的な処方箋はなく、各地方公共団体が抱えている個々の問題に関し、試  
行錯誤しながら対応していくこととなります。

しかし、下水道経営をサステナブルなものとするためには、下水道の経営状況を把握し、今後の需  
要を見据えて目標を設定し、成果を得るべく現場対策を実践する人材を育てていくことが、問題の解決  
につながるのではないのでしょうか。スタートは、人材育成からです。

JS 研修は、埼玉県戸田市の研修センターで、下水道の研修を専門に実施しています。研修は下水道  
の業務別に、計画設計、経営、実施設計、工事監督監理、維持管理、国際展開の 6 コースに分け、各コー  
スにテーマ毎の専攻を設けています。このほかに、地方会場で下水道経営についてセミナーを行う「地  
方研修」、地方公共団体にお伺いして研修を行う「派遣研修・個別研修」、民間企業の職員の方を対象と  
した「民間研修」を展開しています。

JS 研修センターは、日本で唯一の下水道専門の研修機関として、「第一線で活躍できる人材を育成す  
る」ため、皆様のお役に立てるよう、幅広い研修を実施しております。また、それぞれの研修は、エキ  
スパートと呼ぶにふさわしい講師陣が担当いたします。

今こそ、明日の下水道を担う人材育成の一環として、JS 研修をぜひお役立てください。

## 研修生の声

## 下水道事業団研修に参加して

高知県土木部公園下水道課  
伊藤 理恵

この度は「みずのわ」への執筆依頼を頂き、誠にありがとうございます。電話を頂いた時には驚きましたが、1年に3回も来る人は初めてではないかとも言われてしまいましたので、私が研修で感じたことを少しでも皆様にお伝えできればと思います。

私は平成20年度に高知県に入庁し、7年間道路事業に携わってきましたが、今年度から初めて下水道事業に携わることになりました。業務内容も大幅に変わったうえ、下水道に雨水を流すことも知らなかった私は、右も左も分からないまま5月に開講された「下水道事業入門」に参加させていただきました。4日間で下水道の基礎を学び、人孔モデルや水中歩行モデルなどを利用し、簡単ではありますが、現場の危険性を体感させていただきました。実際に現場に行くことがほとんどなく工事も発注することがない私にとって、この時の体験や頂いた資料が現場の方々の声を理解する上で手放すことのできないものとなっております。

また、12月には高知県では今年度から都道府県構想の見直しを始めている関係から、「下水道事業の計画（都道府県構想）」にも参加させていただくことになりました。「下水道事業入門」では下水道事業を行ったことの無い方が多かったのですが、この時は下水道の様々な経歴をもつ皆様方とお話する機会に恵まれました。同じような業務に携わっている方々と業務中に感じたこと、思ったことなどを話していくなかで、このような機会は通常の業務ではできない贅沢なのではないかと感じました。なぜならば、人員削減が進み、ベテランの職員が退職し、少ない人数で下水道業務を全てこなしていく自治体も少なくなく、同じ業務を行っている職員が近くにおらず、電話の先の遠くの自治体しか相談相手がないという状況が起こっているからです。研修生同士も仲良くなり、相談できる仲間をつくることのできる事業団の研修は、勉強だけではなく横のつながりを作る上でも大切な機会なのだと思います。

この原稿を書き終わったころには「改正下水道法に基づく事業計画の策定・変更に係る研修」に参加しています。前回の研修に参加した方々に再会できること、今まで参加した2つの研修とは異なる自治体の皆様にお会いできることをとても楽しみにしております。前2回の研修中には飛行機の関係もあり、モノレールのダイヤが乱れたことで午後の閉講式が取りやめになったり、埼京線が不通になり帰りのルートが分かるだろうかと危惧したりと、交通事情に恵まれない研修が続いてしまい、3回目の研修を無事に過ごせるように今からお祈りしているところです。

最後に1年に3回もの研修に参加する機会を与えて下さった職場の方々に感謝申し上げるとともに、講師の皆様、研修に参加された皆様、下水道事業団の益々の発展と活躍を祈念いたします。

(平27『下水道事業入門』ほか受講)



## 受益者負担金研修で得たもの

長野市上下水道局営業課 負担金担当  
飽田 智巳



今年度4月に初めて水道局に赴任しました。事務職だから料金担当になるかと思いきや、負担金担当と命ぜられたのですが、一体なんの負担金なのか皆目検討もつかないまま日々の申告書送達による苦情処理から始まりました。

受益者の方々と話をしているうちに自分でも徐々に理解を深めるといった危険な毎日でしたが、あっという間に半年が過ぎ、今回の研修の日が来ました。

そして研修が始まると、今まで当たり前のように前例踏襲で行ってきた業務が正しいとは限らず、条例自体の見直しをしないと危険であることや、税務と違って負担金は特殊な性質のものであること、更に広い視野で、今後の長野市の財政にも下水道業務全体が及ぼす影響が甚大であることがわかってきました。

毎日加藤先生の講義だけでもかなり脳内改革され、今後の業務を見直していく意気込みができましたが、講義の後のディスカッションでも全国からの負担金担当の皆さんからいただく情報交換により、皆で一喜一憂しつつ受益者負担金について理解が深まりました。

「女性はいるかいなか微妙だね。」との話を前任に聞いていたので、これは夜暇になると勿体無いと思って習い始めた三線を担いで行ったのですが、夜練習する時間は皆無でした。負担金研修は6人も女性がいて、部屋も4人部屋でした。毎日話し相手になってくれる楽しく優しい方々で、部屋でも食堂でも楽しい時間でした。設備も予想以上に女性スペースが確保されていて、部屋のお風呂のほかにも個室のお風呂とシャワー室があり、特に混雑も無く快適に過ごせました。洗濯機もあるので荷物もそんなに多くなく済みました。

ディスカッションの後イナゴからのあとふきが始まり、加藤先生も一緒に加わってくださり毎日楽しく美味しいお酒をいただくことができました。最終日は佐世保から来てくださった講師の末永さんも交え、全員でげえに盛り上がりました。

毎日、日付が変わるまで情報交換会をしていたにもかかわらず、次の日には平然と講義を一日中される加藤先生は超人だと思いました。研修生の方々も同様、昨夜はヘロヘロになっていたはずなのに、次の日にはまてに質問や意見が飛び交い驚きました。

今回の研修で後悔していることがあります。ひとつは、写真を撮らなかったこと。折角素敵なメンバーに恵まれたので、記念写真をたくさん撮れば良かったと後悔しています。もうひとつ、再び集まる約束をしなかったこと。今思い出しながら、またこの研修メンバーで集まって楽しく飲み交わす機会を作っておけばよかったと後悔しています。

実は私の父も事業団研修経験者で、皆退職したので集まりこそしないものの、いまだに年賀状をやり取りしている方もいるとのことを研修から帰ってきて聞きました。それ、研修前に教えて欲しかったよ、お父さん。

たった5日間の研修でしたが、沢山の貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



## 管きょ設計Ⅱを受講して

兵庫県まちづくり技術センター 淡路事務所  
前成 清二

皆さん初めまして。私は、平成27年度の「管きょ設計Ⅱ」の研修を受講させて頂きました。兵庫県まちづくり技術センター 淡路事務所の前成 清二（まえなり せいじ）と申します。先日、渡邊先生の達筆な字で書かれた封書が事務所に届きました。何かあったのだろうか？と楽しみと不安な気持ちを持ちつつ開封したところ、事業団研修について、研修会報「みずのわ」への寄稿依頼がはいつておりました。最初に思ったことは、「えらいこっちゃ」又、頭使って考えなあかん？そや、断る理由を考えて他の方に任せよう。あれこれ考えている内に、渡邊先生のお顔が目に浮かび、あれほどお世話になったのに何考えんや、「何でも挑戦や」と思いが変わりました。と言う訳で研修受講当時の思い出を書かせて頂きます。

まずは自己紹介から、私は年齢58歳、行政職1年目の新人であります。紙面を読んだ方から“え〜”と声が出るのでは？約38年間民間に勤めており、平成27年4月から縁があり兵庫県まちづくり技術センターの淡路事務所下水道工事の管理業務に就かせて頂いております。但し、下水道工事はまったくの素人です。日々、所長をはじめ諸先輩方から指導教育を受けておりました。そんな折り、事業団研修に行ってはどうか？と先輩から声を掛けて頂きました。二つ返事で行かせて頂きます。と返事はしたものの事前資料を確認したところ、研修内容と期間に驚きました。16泊17日、朝から晩まで講義がぎっしり…又、ディスカッション課題・情報交換資料の作成、あれ？研修を甘く見ていたなど不安が出てまいりました。そうこうしていると、渡邊先生から幹事の指名がありました。お断りするつもりで、年齢・経歴・知識不足等等を説明致しましたが、それでも是非にと指名され幹事を引き受けることとなりました。不安だらけで研修当日を迎えました。いざ、日本下水道事業団研修センターへ〜 まずは、渡邊先生と対面、暑さ真っ盛りの8月というのに、スーツ姿でそれも3ピース、私もスーツでしたが驚きました。第一印象は、手強い先生？幹事・副幹事と初顔合わせ、そして、役割の説明を受けました。なんと役割の多いこと…昼食をご馳走になり、開講式、北は岩手県、南は、沖縄県までの総勢31名、皆さんの緊張と不安、そしてはやる気持ちを感じました。早速、初日ながらディスカッション課題の討議を行いました。研修生の課題や諸問題を聴き意見交換を行いました。夕食は、歓迎コンパを開催し、自己紹介・お国自慢・故郷の土産自慢等を聴き、人となりを知ることが出来たことを思い出します。2日目からは、下水道概要から始まり、設計・関係法令・積算・実験・施設研修・特別講義、そして、効果査定と非常に内容の濃い講義を受けることが出来ました。私は、聞くこと見ることを全てが新鮮で有り興味を持って取り組むことが出来ました。但し、他の研修生と比べて非常に知識に差があり迷惑をお掛けしました。近くにいる研修生に誰彼かまわず、質問責め、計算に至っては、公式の説明まで教えるを乞う状態でした。研修生の皆さんは、最年長でありながら下水道の経験の無い私に優しく接してくれました。研修生の応援と後押しが非常に嬉しく、折角の機会を無駄にしないようにと励むことが出来ました。特にお世話になった講師は、実業務に携わっている熊本市の藤原主任・成松主任です。分かりやすく丁寧にいやな顔もせず、時間を掛けて設計方法を教えて頂きました。本当にありがとうございました。最後になりますが、下水道研修に参加させて頂き、まずは、知識を習得することが出来ました。そして、仕事に対する考え方・取り組み方・行政職として有るべき姿を学ぶことが出来ました。そしてなにより多くの出会いが出来ました。渡邊先生初め講義をして頂きました講師の皆様、事情団の職員の皆様、研修生の皆さんです。本当にお世話になりました。知り合えたことに大変感謝しております。修了式では、胴上げまでして頂き、幹事冥利につきました。研修生の皆さんが職場に戻り活躍している姿が目に浮かんでいます。私も皆さんに負けぬように業務に励みます。本当にありがとうございました。





## 工事管理Ⅱを受講して

北谷町建設経済部都市計画課下水道係  
渡眞利 幸樹

長澤先生、「工事監理監督コース 工事監理Ⅱ」を受講した全国の研修生の皆様お元気でしょうか？

研修が終了して半年が過ぎました。研修生の皆様は各職場において、研修で得た知識を発揮し工事監督員として日々邁進されていることと思います。私も担当する現場の竣工が近づき、詰めの作業に追われながらも何とか業務をこなしています。

研修レポートの前に少し近況報告を…。

1月下旬の強い寒波の影響を受け、沖縄では久米島で39年ぶり、沖縄本島においては1890年の観測開始以来初めての“みぞれ”を観測しました。“みぞれ”は気象観測の分類上は雪と同じ扱いとして記録される為に、「沖縄で雪がふったー！」と喜び？の聲が上がっていました。また、私事ではありますが、1月4日に第一子となる待望の長男が誕生しました。慣れない育児に戸惑いながらも日々奮闘しています。

さて、近況報告はこれぐらいにして研修での思い出に触れたいと思います。

「工事監理監督コース 工事監理Ⅱ」では、11日間の日程において、工事監督者として工事管理に必要とされる知識や技術を習得するために、法令・施工管理・設計変更・住民対応・工事検査・会計検査などの全15の講義、施設研修や効果測定（テスト）がありました。各教科の講師は第一線でご活躍中の方々であったことから、とても解りやすく実務的な講義を受講することができました。

研修中のスケジュールは、日中は講義、夜はグループで集まってディスカッションの資料作成、その後各自持ち寄った地酒の飲み比べやお国自慢、日々の業務に関する意見交換等々で就寝時間は連日深夜0時越えの非常に濃い11日間でした。

すべての講義に思い出があるのですが、今回は特に印象深かった①施設研修、②模擬会計実地検査、③補償事務の3点についてご紹介したいと思います。

### ①会計検査院安中研修所での施設研修

群馬県にある会計検査院安中研修所にはボックスカルバート、下水道管等の実構造物モデルがあり、主鉄筋間隔の誤り・鉄筋のかぶり厚さ不足・コンクリート打設不良等の施工ミスが一目瞭然で分かるモデルとなっていて、研修所職員の方から施工不良となった構造物の特徴や鉄筋の配筋チェック方法など現場で確認すべきポイントの説明をいただきました。

### ②元会計検査院の藤原講師による模擬会計実地検査

実際に担当した工事の検査カードを作成し、調査官役である藤原講師への工事概要の説明、施工方法等の質疑、根拠資料の提示など実際の受検会場の様な雰囲気の中、模擬会計検査が行われました。藤原講師からの鋭い質問に回答が詰まる場面もありましたが、無事に検査を終えることができました。（会計検査を受検した事が無い方におすすめてです。）

### ③東京都下水道局石塚講師による補償事務

補償の種類（建物及びその他の工作物、井戸枯渇、仮移転費、営業休止）、下水道工事の施工に伴い被害が発生した際の手続き、事前・事後の調査方法などの解説がありました。

本町では下水道の普及が約98%あり、今後は下水道施設のメンテナンスが事業の大きなウエイトを占めてくることになりなす。住宅密集地での管路布設替え等が予測されることから、早急に補償制度をまとめる必要があると感じています。

今回、研修に参加して工事監督者として様々な知識を得ることができたこと、J S 講師の皆様・全国の研修生と繋がりを持てたことはとても大きな財産となり、現在の業務に活かされています。次年度も(人事異動がなければ)研修に参加しようと考えていますので、その際は宜しくお願いします。

最後になりましたが、長澤先生をはじめ講師の皆様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。また、J S の発展と研修生皆様のご活躍を祈念してレポートをとじます。

## 思い出写真



浦和パインズロイヤルホテルでの懇親会



擁壁の配筋について説明を受ける研修生  
会計検査院安中研修所



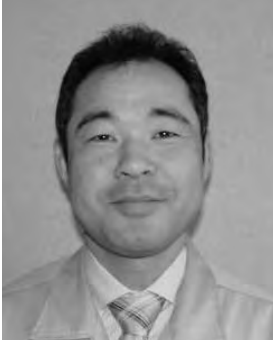
藤原講師による模擬会計実地検査



我が家の長男 瑞樹です。

## 気合は続く「処理場設計Ⅱ」研修

周南市 下水道施設課  
貞弘 耕司



私は、平成25年度の「処理場設計Ⅱ」を受講させていただきました。  
当時を振り返ると、受講前よりクラス委員の依頼やディスカッションの事前課題、慣れない前泊移動、不安だらけで開講日を迎えました。教室の席に着くと見たこともない資料の数々、不安は頂点に達していました。そんな中、私を救ってくれたのがコース担当の太田教授と受講生の方々でした。特に最初のオリエンテーションでの「……大切な時間を、輝く時間に……研修中は、けじめのある行動を！」との太田教授の言葉で身が引き締まり一致団結、昼の講座は真剣に、毎晩談話室で盛り上がり、終盤に行われた効果測定及びグループディスカッションもおかげで無事終えることができ、充実した日々を過ごすことができました。

最終日、修了証書を頂き達成感とともに一緒に過ごした仲間との別れが寂しく、再会を約束し研修センターを後にしました。

そして翌年の夏、同窓会開催の話がもちあがりました。大阪市、京都府の仲間が幹事となり、下水道展が開催される大阪にて一回目の同窓会を開くことができました。同窓会では、研修の思い出話から各自の近況、仕事のことまで、一晚では足りないぐらい盛り上がりました。さらに、その冬の年末には、忘年会を名古屋で開催し、仲間との絆を深めることができました。

昨年の「下水道展 '15 東京」の際には、二回目の同窓会を開き、念願の太田教授も参加していただき、下水の話に一層花が咲き楽しい時間を過ごすことができました。次の同窓会も下水道展に合わせて開催しJS研修の輪を繋いでいく予定です。

先日のこと、職場内では結論が出ない課題について同窓生へお助けメールをすると、多くの仲間から回答があり、課題解決の参考になりました。現在は下水関係から別の職場に異動された方からも、以前の経験や他の部署への問い合わせまでしての返信があり大変嬉しくおもいました。

研修に参加し数年が経ちますが、研修中に得た知識は勿論、この度の縁で知り合えた方々、その後の時間が私にとってすべて財産であり宝物になりました。今後もこの縁をもっと深く末永く大切にしていきたいです。

最後に太田教授をはじめ研修センターの皆様、同じ時を過ごせた研修生に感謝を申し上げるとともに、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



## 同窓会ニュース

## 新たな輪「宮山福会」

宮城県松島町建設課建設班長  
梁川 秀幸

本誌の原稿依頼を1月中旬に受け、日ごろの多忙な業務に追われるなか、宮山会の諸先輩の寄稿をあらためて読ませていただき、原稿作成にかかりました。

宮城県松島町は「日本三景松島」の中心地の松島海岸を有する町で、年間350万人の観光客が訪れる観光地です。また、湾内で養殖される牡蠣が特産物となっています。

東日本大震災の際は、松島湾の島々に守られ宮城県の沿岸市町のなかでも、津波被害は比較的小さいものの、震災の復旧復興は今もなお続いており、全国6都市から職員の派遣を受け復興に向けて一丸となって頑張っているところです。

私が事業団研修に参加したのは、平成9年秋の管きょ設計Ⅰが始まりとなります。旅立つ前日、先輩から「研修所に行ったら、渡邊良彦先生を訪ねなさい」との命を受け、お会いしたのが初めての出会いで、にこやかな笑顔で気さくに声をかけて頂き、緊張が解けたのを覚えております。また、震災後に研修所に伺った際は、渡邊先生をはじめ、研修でお世話になった諸先生方に声をかけて頂き、熱い思いがこみ上げました。

下水道に携わった12年間で、管きょ設計Ⅱや処理場管理Ⅱ、そして処理場設計Ⅱなど計7回ほど事業団研修を受講させていただき、全国各地の自治体職員の方々とは昼間は実習や演習に勤しみ、夜は談話室に集まり酒を交わしながら交流を深めたことは、私にとって良き財産となっております。

そして、渡邊先生の気さくな人柄に惹かれ集まった、宮城県と山形県の下水道事業団研修OBの交流会として始まった「宮山会」も22回目を迎え、昨年より福島県の郡山市・須賀川市からの多数の参加もあって、「宮山福会（みやふくかい）」として新たなスタートをきりました。

平成27年10月に、事業団から渡邊先生と青木氏、宮城県と山形県に福島県は郡山市と須賀川市、岩手県そして関東の方々に京都府長岡京市の谷口氏を迎え、26名が宮城県は鳴子温泉郷の中山平温泉に集まり開催されました。

皆さんが持ち寄った美酒を飲み交わし、時間が経つのを忘れ夜遅くまで宴がくりひろげ大いに盛り上がり、交流の輪が広がる会となりました。

最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と研修生皆様のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げます。



## くまもとでみずのわ、広がるモン！（熊本会）

熊本市上下水道局 計画調整課  
太田 ひとみ



私の初めての事業団研修は、入庁1年目の平成25年度に参加した下水道事業入門コースでした。「熊本市は渡邊先生にとってもお世話になっているから、挨拶忘れないでね！」と職場の上司に念を押され、「粗相のないように、失礼のないように。」と一人緊張して、どぎまぎしながら挨拶に伺ったことを思い出します。研修では渡邊先生の講義はありませんでしたが、今では、時折職場にかかってくる渡邊先生からの電話を一番にとり、先生と会話を楽しんでから、本来の用件の上司にしぶしぶ電話を代わるようになりました。

本寄稿の打診の電話があった時も、私が一番に電話に出て、渡邊先生と少しお話してから上司に代わりました。そして、電話を終えた上司から「太田さん、みずのわの寄稿よろしくね。」と言われたのです。そのときは、上司でなく私？きっと上司の間違いだらうと思いました。しかし、先生との会話を思い出してみると、なんとなく「〇〇さんに“みずのわ”を書いてもらおうと思って」と言われたような気がします。上司に確認してみると、その「〇〇」が私だったとのことでした。意味を理解したときは、数週間前に参加した2回目の事業団研修で調子に乗すぎたのだろうかと思わず後悔しました。

熊本県下でのOB・OG会は、毎年3月に渡邊先生の訪熊に併せて行われています。市町村を越えて集まる「熊本会」は、発足からやがて10年になります。当初は参加者10名程だった熊本会は、参加する自治体も増え、平成26年度には30名以上集まるほど大きな「わ」になりました。参加者は、久しぶりにお会いする渡邊先生に現況を報告したり、仲間と研修生活を振り返って懐かしんだりと会話が弾むようで、終わるころには「ああ、時間が足りない！」と思うほど盛り上がります。「事業団研修」と「渡邊先生」という共通の話題で繋がるので、正式な発足前から参加している方も私のような新参者も、年齢、所属関係なく、日常業務は下水道から離れてしまった者も、みんな同じように楽しめる点もこの会の魅力の一つだと思います。

今回、熊本会を全国に紹介できる貴重な機会を頂いたのですが、私が熊本会に参加したのは平成26年度の一度だけであったため、まずは情報収集から始まりました。そのため、前回の熊本会でお会いした先輩方に電話をかけ、事情を説明し、熊本会発足までの経緯を教えてくださいました。掲載する写真が見つからない旨を相談すると、昔の写真が残っていないかまで探していただきました。玉名市役所の早上様、熊本県庁の池川様には、お忙しい中、貴重な時間を割いて教えていただき、心からお礼申し上げます。掲載している写真は、熊本県の池川様からご提供いただいた平成18年度の第1回熊本会の写真です。残念ながら、どうしても熊本会での集合写真が見つかることができませんでしたが、渡邊先生の笑顔が素敵な写真が見つかりました。

本寄稿の執筆にあたり、本当に多くの人に助けていただきました。日常業務では、なかなか、他市町村の下水道経験者と出会うことはありません。また、私のような役所歴も下水道歴も短い若手にとって、下水道のスペシャリストの方々との出会いは、非常に貴重な機会になります。今回、こうして、助けていただけたのも、下水道事業団研修をはじめとし、OB、OG会を開催していただけることで、みずのわができ、その「わ」が広がったことによるものだと感じました。この「わ」をより一層広げ、くまモンのように全国に広がってほしいと思います。

最後ではありますが、日本下水道事業団研修センターの皆様、並びに全国の「みずのわ」会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



## 広島「水サミット」に参加して

廿日市市環境産業部 次長  
瀧本 利彦

下水道事業を取り巻く状況は、私が入庁した昭和50年代と比べ、変わってきており、施設の維持管理、改築、効率的な事業経営などさまざまな課題が増え、「みずのわ」の読者の方々もご苦労されていることと思います。

良い仕事をしていくためにもライフワークバランスをもち、時には仲間とよき昔を思い出したり、小旅行でリフレッシュすることも必要です。少しでも気分転換に役立てていただければと思い、長年お付き合いのある渡邊先生から依頼を受け寄稿させていただきました。

初めに廿日市市の紹介をさせていただきます。

廿日市市は、広島市の西隣にあり広島市のベッドタウンとして人口が増加し、私が入庁した昭和57年当時は3万人そこそこだった人口も昭和63年には5万人を超え、市制に移行しました。

現在は、世界遺産の厳島神社がある宮島町を初め、佐伯町、吉和村、大野町の4町村と合併し、人口は11万を超え5つの処理区と処理場を有し、更なる管渠整備と施設の維持管理が課題となっています。

私が入庁した当時は、人口の増加とともに市街化が進む中で、公共下水道の整備が急務となっており、昭和58年には、下水道課が新設され下水道課に配属後、14年間下水道に携わってきました。

日本下水道事業団の研修に参加したのは、廿日市市が公共下水道に事業着手が決定した時期に管きょIと、処理場の着工時期に処理場設計のコースでお世話になりました。

昭和58年に初めて参加した管きょIの初級者のコースでは、全国から同じ目的を持って集った多くの仲間に会えたことが、新鮮だったことを思い出します。

また、一番印象に残っているのは、寮室には床がスプリングでできた二段ベッドが2つ配置してある4人部屋だったことです。

研修で処理場の視察で日光に行ったことや寮室で夜遅くまで、お互いの自治体の状況などについて話をしたことが懐かしく思い出されます。

数人ではありますが、今でも当時一緒に研修を受けた仲間との年賀状のやり取りや、下水道に関する情報や資料交換をしております。

今回は、渡邊先生を始めとした(元)教授、副市長、部長、課長経験者の方々が広島に来られることとなりました。聞けば、当市の先輩も当初から参加しており、また、私も数年前から渡邊先生のお世話で研修のお手伝いをさせていただいているご縁もあって、世界遺産の「宮島」と灘、伏見と並び称される酒蔵の町「西条」巡りに同行させていただきました。

初日の宮島ではガイドさんから隠れた場所や知られていないシャモジの言い伝えなどの歴史の勉強をしました。

そして、厳島神社などを散策したのち名物のアナゴ飯を堪能しましたが、お店のご主人が、(元)宮島町の下水道課長、町議会議員を歴任されており、また事業団の受講生だった旨伺い、戸田での思い出話に花が咲きました。(偶然の出会いでした。)

宮島の公共下水道は、普及率が99%とほぼ完了しており、また、宮島水質管理センターは景観を考慮して神社をイメージした建築物となっており、完成当時は、話題になった処理場です。

夜の部では、事業団研修の受講生でもある廿日市市の原田副市長、川本部長にも出席していただき、下水道談義に花を咲かせながら広島の夜を楽しみました。

二日目は、広島からJRで30分ほどかけて東広島市の西条駅に移動しました。

西条では、渡邊先生と交流のある東広島市下水道建設課の樋口さん(現・広島市に勤務)に「酒蔵通り」を案内していただきました。「酒蔵通り」は、西条駅前に隣接しており、安部総理とオバマ大統領

の会食で有名となった賀茂鶴酒造をはじめとした7つの歴史のある酒造所がひしめいています。散歩しながら、ふらふらと利き酒に誘われ酒造所めぐりをしました。それぞれの酒蔵所で味が違うので飲み比べでほろ酔い気分になってしまいました。

最後は、もちろん広島名物のお好み焼きでしめくりました。

一人の友人や知り合いから多くの仲間が増えていき、様々な交流ができたことは、大変有意義なことだったと思っています。現在も日本下水道事業団研修センターにおいては、様々な出会いがあり、多くの仲間が同じ目的を持って活躍されていることと思いますが、人と人との出会いを大事にしていきたいと思っています。

最後に研修センターの益々のご発展と全国の下水道に携わっておられる地方自治体の皆様の今後の活躍をご祈念申し上げます。



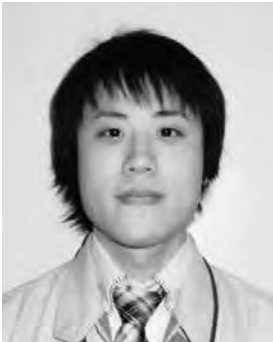
「広島水サミット 2015」平成 27 年 5 月 15 日（金） 日本三景宮島：厳島神社





## 「福岡みずのわ会」ってなんしょーと

福岡市道路下水道局建設部中部下水道課  
岩瀬 広継



事業団研修の「実施設計コース管きょ設計Ⅱ」に参加して、気づけば3年がたちました。研修への参加にあたり「研修所についたら、まず渡邊先生のところに挨拶に行くこと」と先輩方に厳命され、緊張しながら事務室の扉をたたいた事を思い出します。その際、渡邊先生は気さくに声をかけていただき、研修中も経験の浅い私を気にかけていただいた事を、今でも良く覚えています。研修では、業務に役立つ知識を学べただけでなく、他の研修生とも公私に渡り交流を深めることができ、非常に実りある楽しい研修でした。

そんな研修も終わり懐かしさに浸っていると、翌年の3月上旬ごろ、歴代の研修を受講された先輩方から渡邊先生が福岡にいらっしゃるとの連絡を受け、懇親会へのお誘いを受けました。

この懇親会こそが「福岡みずのわ会」です。「福岡みずのわ会」は、現在まで34年もの間続いている会であり、始まりは当時の渡邊先生と懇意にされていた3名の先輩方が、来福される渡邊先生の歓迎会を開いたことが契機と伺っております。当時は少人数で始まった会も、時を経て福岡県や福岡市から下水道事業団への研修生が増え、昨年度は総勢22名で開催されました。

この22名は、福岡県・福岡市・宮若市・直方市の土木職や衛生管理職などで構成され、職種や役職を超えた幅広いメンバーとなっています。共通点はただひとつ、「下水道事業団研修に参加した経験があること」。たったこれだけのつながりでも、研修時の思い出や、近況報告、またこれからの下水道について等々話題も尽きず、管理職から若手職員まで立場を気にせず白熱した議論が交わされました。特に今回の会は、設立に大きく寄与された堀氏（当時：福岡県都市部総務課検査監）と諫山氏（当時：福岡市財政局理事）が退職されることから、お二人からのご挨拶の後、渡邊先生からもお言葉をいただき、非常に感慨深いものとなりました。退職するお二人からは退職後も「福岡みずのわ会」に参加して頂けると伺いましたので、渡邊先生も大変喜ばれておりました。

このように「福岡みずのわ会」は、渡邊先生を中心とした組織を超えた繋がりが最大の持ち味になっています。私も、この場があることで通常の業務ではお会いすることが無いような方々と色々なお話しをすることができ、非常に良い経験となり日頃の業務への自信にもつながっているところです。特に、福岡県の下水道事業発展に尽力された木原氏（現：福岡県下水道管理センター理事長）と出会えたことは、大きな財産となっております。

福岡市は、人材育成の観点から下水道事業団研修への派遣を毎年継続しており、今後も人の繋がりは広がっていくものと考えています。

これからも、「福岡みずのわ会」を、先輩方の思いを受け継ぎながら、楽しく、有意義な会となるよう、若手職員の立場から、盛り上げていくとともに、未永く参加したいと思っています



## 関東みずのわ会の“OKH”

(前) 大和市環境農政部参事  
相原 健一



「研修みずのわ」の全国愛読者の皆さま、こんにちは。「研修みずのわ」に寄稿をさせていただくことになりました。実は内緒の話ではありますが、以前に一度上司の投稿原稿を書かせていただいた（いや、書かされた）という前科があり、今となってはいい思い出として記憶に残っております。

「関東みずのわ会」は、30 数年継続されている会で、会員は 100 名を超す大所帯です。発足時は現役職員が中心でしたが、歳月を重ね、今では毎年のように定年退職者の“卒業”を祝うセレモニーを新年会と兼ね合わせて開催しております。そこで今回は、「関東みずのわ会」の“OKH”いわゆる「OB 活動報告」をしようと筆を執った次第であります。

さて、私が日本下水道事業団研修に参加したのは、本館改修工事前の平成 6 年正月明けの「維持管理Ⅲ」のコースで、研修修了生 2 万 5 千人を達成した年でもありました。この研修から、事業団や渡邊准教授をはじめ全国の下水道マンとのお付き合いが始まり、以来、「みずのわ」の皆さまとの親交を深めさせていただいております。

研修参加当時は、大和市水質管理事務所中部下水処理場の電気技術職員として処理場の運転管理を担当しておりました。市の人口は 19 万人（現在は、23 万人の中核市）で、人口増加に伴いなお一層のインフラ整備に力を注いでいた時代でありました。当時の上司に背中を押され、気が進まぬまま研修に参加しましたが、コース担当で横浜市から事業団へ出向されていた吉田先生から、下水汚泥から代替エネルギーや製品を作り出す先進技術の紹介を受け、下水道は「男のロマン」だと聞かされた時には、目から鱗のような感覚に囚われ下水道の魅力に取り付かれたものでした。研修では相部屋となって毎晩遅くまで酒を酌み交わし下水道について熱く語り合った仲間とも、今でも近況の報告等を交わしており、その全国ネットには非常に心強く感じております。

残念ながら、研修を受けたその年に人事異動で公共施設の建設部門に移りました。しかし、私がこうして研修後も「みずのわ」のお仲間に加わらせていただいているのも、研修センターの渡邊良彦准教授との出会いが大きな要因となっております。事ある毎に渡邊先生からお声を掛けていただき、「関東みずのわ会」の皆さまとの交流が続いております。

「関東みずのわ会」の最近の活動は、昨年 5 月 8 日にさいたま新都心で開催された「新年会・卒業を祝う会」でした。ちょっと遅めの新年会を兼ねた平成 26 年度末定年退職者のお祝い会でした。2 月の予定が諸事情により 5 月に延びての開催となりました。今回は、千葉市建設局田邊康夫室長、東京都下水道局高橋淳係長、そして僭越ながら私、の 3 名の卒業をお祝いしていただき、総勢 40 数名のご厚意による慰労会開催となりました。参加者は東京、千葉、埼玉、栃木、茨木、神奈川の各都県から参集し、時間の許す限り遅くまで歓談しました。卒業生の紹介やエピソードを織り交ぜた楽しいスピーチに毎回のことではありますが爆笑の渦でいっぱいでした。最近では年に一回の開催となっておりますが、年々退職者が続出、現役のメンバーが減少していき、まさしく OB 会の様相となりつつあります。話題も下水道関係中心の話から、お互いの健康を気遣う内容へとシフトしているように見受けられますが、美味しい料理と美酒に舌鼓を打ちながら、お互いの研修当時の思い出やエピソードに花を咲かせ、本当に楽しいひと時を過ごすことができます。

次回開催は、平成 28 年 2 月 5 日に、埼玉県新座市の土屋誠部長の卒業を祝う会を予定しています。土屋部長の飛び抜けて明るい卒業の言葉を今から楽しみにしております。

今回は“OKH”（OB 活動報告）として寄稿させていただきましたが、毎回幹事を引き受けてくださっ

ている足利市津久井孝浩主査や千葉市森春仁課長補佐、鈴木宏一班長をはじめ現役バリバリの職員など、「関東みずのわ会」にはまだまだ若い力が温存されています。今後も研修で結ばれた絆を強く、太く、そして末永いものにしていくために、「みずのわ」の波紋を次世代に伝えたいと一同心をひとつにしております。そのためにも、更に研修センターの発展と関係者の皆様のより一層のご活躍をお祈りして“OKH”といたします。



## 研修特別講義

## 特別講義体験記

福岡県下水道管理センター 理事長  
木原 宗道

## ★はじめに

平成 27 年 9 月 1 日、戸田公園駅に降り立ちタイムスリップしたかのように研修センターにたどり着きました。研修センターの面影もかなり変わっており、私の記憶も老化のせいでかなり薄れていましたが、玄関に立つと 27 年ぶりの懐かしさがこみ上げてきました。とはいえ前回の研修生としての立場とは違い今回は講師としての立場、戸惑いながらも建物の中へと入って行きました。そこでは渡邊良彦先生を始め研修センターの皆さん方や、その日初対面のギタリスト、埼玉県下水道公社理事の渡辺さんが出迎えてくれました。

## ★講師を引き受けたいきさつ

それは昨年 2 月、渡邊先生を囲む会に私も混ぜてもらったところから始まりました。渡邊先生とは私が県の下水道課長をしていた平成 18～19 年頃に仕事の席で何度かお会いしたくらいで、平成元年に研修生として受講した時も丁度いき違いで、幸か不幸か（冗談です）これまでほとんどお付き合いはなかったわけです。その分、27 年間のブランクを埋めるかのように、その日の懇親会は本当に密度の濃い楽しいひと時でした。そして数日後に渡邊先生から講師依頼の電話があったように記憶しています。「私には研修生の皆さんのお役に立てるようなアカデミックな知識も話題も持ち合わせていないから」と断ったのですが、私以外の講義がアカデミックなので息抜き程度の話で十分だから、とあっさり返されました。また奇遇にも研修センター次長の高村さんが 27 年前の研修で同部屋で一緒に寝泊まりした研修仲間であったこともあり、これも縁ということで結局はお引き受けした次第です。ということで講義のタイトルは「県庁生活を振り返って」。面白くも何ともないタイトルですが、私の 35 年間の県庁生活、そのうち約半分の 17 年間下水道行政に携わった中で、思い出に残る場面をいくつか紹介させていただくことにしました。

また、渡邊先生は私が日頃からバンド演奏などフルートを吹いて楽しんでいることを聞いておられたため、「講義の後について演奏も…」という要請も併せてありました。たいていは酒を飲みながらみんなで楽しく適当に演奏している感じで、「とても研修の場で物々しくソロでやれるような腕前ではないから」とお断りしたのですが、翌日に電話があり、「ソロがだめということなので仲間を見つけましたよ」ということで何と埼玉県下水道公社の渡辺理事と一緒にギターを弾いてもらう算段まで整えてもらったので最早断るすべもありませんでした。渡辺理事にはとんだとばかりで本当に申し訳なく思っています。



## ★講義の概要

「県庁生活を振り返って」みると、思いのほかそう遊んでばかりではなかった、やる時には結構一生懸命だったな、頑張っていた自分を思い返す機会を与えて頂いたこと感謝しています。それでは講義でお話した思い出のうち、3点ほどを要約してご紹介します。

1. 平成元年頃、流域下水道構成自治体のある町長が脱退宣言をしたこと。何度も町長室に足を運び、下水道の長所も短所も理解してもらった上で宣言を撤回してもらった時の安堵感は忘れません。
2. 平成10年頃、隣接県の自治体を本県の流域下水道に編入したこと。全国でもほとんど事例がなく県内部の調整もままならない状況でしたが、当事者自治体の下水道整備に対する強い思いや隣接する関係自治体との絆、国の熱い支援等により実現できました。
3. 平成14～18年頃、某流域下水道処理場の将来の能力不足への懸念から第2処理場構想を打ち上げ地元自治体や住民の方々に理解を求めたが、数年後には構想撤回への理解を求めることとなったこと。社会情勢の変化等による結果とはいえ、関係者の皆さんに多大なご迷惑をかけることとなりました。

## ★特別講義を終えて

まずは、私のつたない講義を最後までご清聴いただいた研修生の皆さんにお礼を申し上げます。また今回の講義で自らの足跡を振り返って思ったことは、仕事や趣味を通して人との出会いがあり、そして沢山の出会った人達に助けられながら今日まで歩んで来ることができたということです。今回も「音楽」がなければ、酒巻理事長、渡辺理事を始め埼玉県下水道公社の方々との出会いはなかったかもしれません。

また、その後千葉において開催された全国下水道公社関係者の会合の場で酒巻理事長との再会を果たすことができ酒を酌み交わすことができたのも、出会いのご縁とありがたく思っております。正に「出会い」に感謝です。最後に、このような機会を与えて頂いた渡邊先生に改めてお礼申し上げます。筆を置きます。



# ～意気に感じる下水道・特別講義体験記～

公益財団法人 埼玉県下水道公社 理事長  
酒巻 和彦



## 1 はじめに

平成27年4月の着任後間もなく、日本下水道事業団研修センターの花輪所長、渡邊准教授がお見えになり、「下水道の将来を担う全国の若い担当者の皆さんに特別講義をお願いしたい。」とのお話しをいただきました。

一瞬戸惑いましたが、ありがたいお話でしたので、私で良ければとお引き受けさせていただきました。

埼玉県下水道公社は、下水道知識の普及啓発、調査研究そして流域下水道の維持管理を目的に、昭和54年2月1日全国初の下水道公社として誕生しました。

本社と5支社1支所、職員数113名の体制で、県内9箇所の水循環センターのうち6箇所（3箇所は包括民間委託）の運転・維持管理を行っています。

埼玉県の流域下水道は公社設立から遡ること13年前の昭和41年4月に、大阪府の寝屋川流域下水道に続く全国2番目の流域下水道として、荒川左岸流域下水道の事業に着手したことから始まります。

その処理場である荒川水循環センター（現況処理能力：日最大1,070,400立方メートル、所在地：戸田市笹目地内）は、昭和47年10月に供用を開始し、今年で44年を迎えます。

この供用開始とほぼ同時期の昭和48年5月に荒川水循環センターに隣接する現在の地において日本下水道事業団による研修が開始されました。

こうした縁もあり、これまで多くの公社職員が研修センターの講師としてお招きいただき、講義を通して職員自らも成長させていただきました。平成27年度も処理場管理や包括的民間委託など17の講座を担当させていただいております。

前置きが少し長くなりましたが、平成27年12月7日に行った講義の概要を振り返ります。

## 2 下水道の未来創造のために

特別講義は、「下水道の未来創造のために」という、やや振りかぶったテーマで展開してみました。これには大きく2つの背景があります。

第一に、埼玉県では流域関連都市が47市町あり、県全体の処理人口の約92パーセントを流域下水道がカバーし、それによる普及率も約83パーセントとなっています。今の時代、生まれた時からパソコンはあり、スマホも普及しました。ともすれば、下水道はあって当たり前、あることさえあまり意識しないで利用しているのではないのでしょうか。社会の枠組みを学ぶ小学校時代ですが、本県では児童の下水処理場の見学者数が10年前の5分の1まで少なくなっています。未来に生きる子どもたちが、清潔で快適な今の生活を続けられるため、先人が建設してきた下水道の仕組みと大切さをしっかり伝える必要があります。

もう一つは、下水処理はその過程において多くのエネルギーを消費するとともに、大量の温室効果ガスを発生していることです。本県では全水循環センターから発生する温室効果ガスは全ての県有施設（学校施設も含む）から排出される量の約半分を占めています。

下水道の取り組みが、地球温暖化防止計画の実効性を高める鍵を握っているのです。

講義では、こうした背景を基に「次世代を担う子供たちのために」として、動画も交えながら、1日で4,200人の来場者を迎えた第19回荒川・下水道フェスタの様相や夏休み親子下水道教室、昨年の下水道展のマスコットキャラクター総選挙で1位を獲得した「クマムシくんとなかまたち」、さらには県

産品「草加せんべい」と「デザインマンホール」をコラボした「マンホールせんべい」などを紹介しました。

次に、「環境とエネルギーのために」として、汚泥焼却炉の自燃運転や高温焼却の現状をはじめ、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減などの指標を設け、職員による内部監査の実施と役員等をメンバーとする環境管理委員会によって検証作業（公社独自の環境マネジメントシステム）を行っていることを紹介しました。

また、「始まった未来への新たな取り組み」として、時間軸に沿った防災行動をあらかじめ定めておく「タイムライン」を導入し、台風の接近時の危機管理に備えたことや浸水被害が頻発する地区に事業を重点実施する「河川と下水道の一体的整備」について紹介しました。

さらに、従来からあるスキルマップに加え、「5年で一人前！」をスローガンに「職員育成プログラム(案)」を作成したこと、さらには若手職員が自由に意見を交わす場として「次世代マイスターミーティング」を設けるなど、急がれる人材育成に向けた取り組みを紹介しました。

### 3 見て、聞いて、触れて

1時間余りの座学講義ののち、年間40,000人を超える県民を対象に展開している普及・啓発活動の一端を是非ともご覧いただきたいとの思いから、「下水道PRパフォーマンス」と称した実演を行いました。

職員が仮装して扮した「下水道博士」と27年度の新採職員3名等による「クマムシくんの紙芝居」（職員手作り）の上演とGKP 広告大賞の行政広報部門賞をいただいた「ツマラン管」（下水道に流して良いもの、悪いものが一目瞭然）の実演の2つのPRパフォーマンスを行いました。当社の職員は、当日100人を超える全国の研修生の皆さんの前でこのPR媒体を披露できたことに感謝するとともに、水平展開への期待を感じたところです。

### 4 意気に感じて仕事をする

講義の結びでは、「下水道を想う」として、『下水道は社会・経済活動を下水の量と質で映し出している。多くの都市では、高度経済成長期という今後どれだけ都市が拡大するかの予測が難しい時代に将来を見極めて下水道の配置や規模を計画したが、その先見性が今の社会を支えている。一方、これからはコンパクト（ダウンサイジング）とネットワークの時代に対応した工夫が求められること。下水道が土木、電気、機械、化学、経営など多様な技術・ノウハウの集合体であるため、奥行き深い事業であり、興味は尽きない、是非若い皆さんには下水道の面白さを実感し、意気に感じて仕事に励んでいただきたい。』とお話しし、講義を閉じさせていただきました。

末筆ながら、今回の講義の機会を与えていただきました研修センターの花輪所長、渡邊准教授をはじめ、高村次長、太田教授、長澤専任講師に厚くお礼を申し上げ、特別講義の体験記とさせていただきます。



## 講師 O B

## 事業団研修センター講師を通して

元 佐野市  
片柳 栄

忘れもしない未曾有の出来事「東日本大震災」から、今年の3月11日で5年が経とうとしています。私事ですが、その3月31日に災害対策本部が設置されるなか、佐野市役所を何ともいえない気持ちのまま定年退職いたしました。

私と下水道との出会いですが、昭和50年4月市職員として採用時から、そのまま14年間ずっと下水道課勤務でした。(少し長すぎたかな?)

げすいどうの「げ」も解らないまま、いつしか、現場踏査、平板、路線及び水準測量や設計・積算・監督業務などを夢中で担当していました。先輩から、いろいろ指導を受け、開削、推進、処理場増設や事業計画変更など多種多様な業務を担当させていただきました。昭和50年当初、栃木県南部の自治体で盛んに下水道事業が進むなか、県や近隣自治体の担当者間で親睦会をつくり、時

には真剣に情報交換を行って来ました。今でもその仲間の皆さんとの交流は延々と続いていて、今の私にとって大切な宝物です。

その間、昭和57年度に「工事監督管理コース(39名)」を受講しました。駆け出しで無我夢中の私にとって、まさに貴重な追い風となる研修でした。今でも、十数人の研修仲間と年賀状での交流をするほか、近くに出掛ける折には、アポイントを取って久々の再会を果たし、お互いの近況報告を「つまみ」に一献酌み交わしています。

話は、前に戻りますが、平成になりようやく異動できたものの、古巣の下水道課にはなかなか戻れませんでした。とは言え、昭和50年代初めの渡邊先生との出会いは、後に私にとって事業団との深いつながりを持つことになりました。昭和59年ごろから事業計画変更や処理場増設を事業団に委託した際に、くしくも渡邊先生が佐野担当になったのも、今になって思うと何かのご縁があったものと思います。

平成20年にはようやく古巣の下水道課に復帰しました。その間、「関東みずのわ会」や「宮山会」など渡邊先生から度々お声かけをいただきましたが、なかなか参加することが叶いませんでした。しかし、下水道課に異動するころ、渡邊先生から「事業団講師に？」との要請があり、一抹の不安はありましたがお引き受けをしました。自分の歩んで来た経験、浅学な知識が少しでもお役に立てれば、さらには、自分自身の向上心のきっかけになればと思い決心しました。今まで、不義理をしてきた「関東みずのわ会」や「宮山会」(昨年からは福島県が加わり「宮山福会」)は、今では常連となり毎年楽しみに参加しています。また、平成24年から、京都祇園仲間で第1回「佐野水サミット」が新たに始まるなど年々その輪が広がり、人と人との絆がより一層深まっています。

全国からの研修生との触れ合いは、私にとって大きなインパクトがあり、毎回、研修所に行くのがとても楽しみです。若い職員との触れ合いを通して、真剣な眼差しを目の前にし、私も心底から背筋が伸びる思いです。研修生の皆さんには、各自治体の実情を十二分に把握(人マネはダメ)し、下水道マンとしてしっかり精進して欲しいと願うものです。また、技術オンリーにならないよう、常にアンテナを高くして欲しいとの思いから、最近の下水道関連の新聞記事を切り抜き「参考資料」として研修生の皆さんに提供させていただいています。ぜひとも精読していただければと思います。昨今の下水道事業全体の動向や業界の技術開発など出来る限り多く情報収集して欲しいものです。

研修生の皆さんには、仲間とのネットワークを最大限活用するとともに、困った時は遠慮することなく研修センターに相談するなど事業団をフル活用して欲しいと思います。



最後になりますが、事業団研修センターの益々のご発展と、皆さまのより一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 研修センターOBとして思い出と近況報告

埼玉県下水道局下水道管理課 企画・管理担当主査

粕谷 直樹

(前研修センター准教授)



皆さん、ご無沙汰しております。埼玉県庁下水道局の粕谷です。お世話になりました研修センターより依頼がありましたので、研修センターでの思い出や近況報告をさせていただきます。

私が研修センターに赴任したのは、平成25年度から平成26年度の2年間です。この間、担当コースで延べ251人の研修生との出会いがありました。在籍した2年間、本当に沢山の貴重な経験をさせていただきました。

私は、実施設計コースの「管きよの設計」を担当しました。今まで経験のない業務であったこと、研修生が研修期間に怪我や病気などのトラブルなく、楽しくそして研修に来てよかったと感じてもらえる研修にできるか不安でいっぱいでした。赴任した平成25年度は翌年に研修受講料値上げが決定してしま

したので、研修生が値上がりしたあとも戸田に研修に行く価値があると言ってもらえるような研修にしたいとの思いもあり、プレッシャーは大きいものでした。

この時、赴任前の所属長（現埼玉県下水道局長）よりいただいた「恕」の言葉を思い出し、行動しました。それは、自分が研修生の立場だったと考え、過去2年間の研修生アンケート内容を確認し、「何が聞きたかったのか」、「何が参考になったのか」、「生活面でどうだったのか」などをまとめ、講義や研修生活に活かすことでした。自分が講義するときには、常に“自分が研修生だったらどうか”を意識し講義に臨みました。外部講師の方とは事前打ち合わせにて調整することで、講義内容に反映することができたと思います。研修センターでの生活は、大部屋での共同生活ですので楽しく過ごせるよう部屋割りを行いました。その他に改善できることはないか研修センター内で調整を図りました。とは言っても初めてのことばかりですので、渡邊良彦先生や長澤不二夫先生に助言をいただき、研修センターの方々の協力により進めさせていただきました。また、コースの研修生全員と私の橋渡し役を担ってくれた役員の方々にもめぐまれ、各研修は、無事におわることができました。毎回、研修最後のお別れコンパの和気あいあいした研修生をみると私自身大変うれしかったです。

ただ一つ残念だったのが、平成25年度に1人の研修生が体調を崩し、研修半ばで研修センターを退所しなければならなかったことです。仲間と寝食を共にし、議論や交流を深めていただけに一緒に研修を修了していただきましたかったです。ですが、この方とは、縁がありまして平成26年度に私の担当していた別の研修に参加され、無事修了証をお渡しできました。

本当に研修センターで過ごした2年間は、まさに“光陰矢の如し”でした。

研修生に加え、自治体、法人、民間の外部講師の方と人脈を広げられたことは、私にとって貴重な財産となりました。

ちなみに、担当したコースで「恕」の話をしたとき、「恕」の意味を答えられのは1名でした。

さて、近況報告させていただきますと、埼玉県に戻りまして引き続き下水道事業に携わっており、下水道計画や国際協力などの担当をしております。私でできることであれば、いつでもお応えしたいと存じます。

最後となりますが、戸田での研修を受けていない方、受講するか悩んでいる方へどうしたらよいかお応えします。戸田に行ってください。埼玉県に来てください。そして、貴重な仲間を作ってください。

日本下水道事業団の研修センターの益々の発展と下水道事業に携わる皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。

## 新任教官の紹介

### 研修センター調査役兼教授 内 笹 井 徹



皆様はじめまして。

平成27年4月1日付けで研修センターに参りました内笹井（うちささい）と申します。

研修センター勤務は初めてになりますが、平成元年にJSに採用され、建設省、公共団体への出向も経験させていただきながら各部署で総務、会計、経理、協定、プロジェクトマネジメント、法務・コンプライアンス業務に携わって参りました。

今年度、いくつかの研修コースで初めて講義を担当させていただきましたが、研修生の皆様や多くの関係者にご協力いただき、なんとか無事に終えることができました。ありがとうございました。

研修センターでは、下水道事業を支えるエキスパートを養成するため、主に地方公共団体の職員の皆様が対象として、埼玉県戸田市にある研修センターで開催する「戸田研修」及び全国各地で開催する「地方研修」、並びに民間企業の皆様が対象とする「民間研修」を実施しています。

「戸田研修」では、「第一線で活躍できる人材の育成」を目標に、下水道のライフサイクルを網羅する、計画設計、経営、実施設計、工事監督管理、維持管理、国際展開の6コースについて、専門的知識が習得できる各種専攻を設定しております。

「地方研修」では、市町村合併等による下水道担当職員の減少、厳しい財政事情等により、戸田の研修センターへの派遣が困難な公共団体のご要望にお応えするため、経営について全国各地で開催させていただいております。

「民間研修」では、下水道事業における民間活用や品質向上の流れを捉え、民間企業のニーズに合わせた効果的な研修を設定しております。

これらの研修については、毎年度、皆様方のニーズを踏まえて、専攻の新設やリニューアルを実施しております。

また、研修の特徴として、研修センターでの研修は、基本的に全寮制となっております。全国各地から集まる研修生同士が充実した研修期間を過ごすことで相互に情報交換することができ、その交流から得られる信頼関係がその後の財産となったという研修生の声を多数聞くことができます。

このような日本下水道事業団の研修に是非ご参加くださいますようお願いいたします。心よりお待ちしております。

研修センター 准教授  
佐々木 健太郎

皆様はじめまして。

平成 27 年 4 月 1 日付けで、埼玉県から研修センターへ参りました佐々木と申します。どうぞよろしくお願いたします。

まずは私の自己紹介からさせて頂くと、平成 17 年埼玉県に入庁、八潮新都市建設事務所で区画整理事業を担当、その後、河川砂防課で河川事業、そして平成 23 年 4 月から都市計画課で 4 年間公共下水道担当として市町村のパイプ役を務めて参りました。

研修センターでは、実施設計コース担当として 6 月の「管更生の設計と施工管理（第 1 回）」を初めて担当し、困惑しながらも多くの方々の助言・助力により無事に進めることができました。その自信を得て、次の「推進工法」、「管きょ設計Ⅰ」、「設計照査（会計検査）」、「管きょ設計Ⅱ」、「コンサルタント研修技術者養成コース（土木）」、計画設計コースの「下水道事業の計画（都道府県構想）」を担当させていただきました。「管きょ設計Ⅰ」や「管きょ設計Ⅱ」の一部教科では、講師としても授業を受け持たせていただきました。どちらも県庁時代に経験した業務内容とは異なり戸惑うこともあり、研修生が不安に感じられた場面もあったと思いますが、外部講師の方々、研修生のご協力もあり、トラブルも無くコース運営ができたものと思っております。

私自身は、平成 23 年 11 月の実施設計コース「管きょ設計・積算のチェックポイント」を研修生として受講した経験があります。3 日間のコースでしたが、日本各地の研修生と開講コンパ以降の親睦を深めることができました。最終日には、研修センターの方々に盛大に見送っていただいたことも印象に残っています。

現在はコース担当者として、コース運営の経験から感じた事がいくつかあります。それは、各自治体の皆様が研修に目的意識を持って参加され、課題の解決に向けて一生懸命に取り組まれているということです。講義以外の時間においては、全寮制の研修というメリットを最大限に活かし、毎晩、持ち寄った銘酒名産と共に親睦を深めて最終日には、まるで旧知の仲であったかのように別れを惜しむ姿を見かけます。コース担当としては、うれしい限りです。この研修で築かれた研修生同士の絆が研修における最も大きな財産になっていると思います。

最後に、全国各地から参加される研修生の皆様にとって「今まで疑問だったことが判った」、「あつという間だった」と感じていただけるような有意義な研修となり、研修生相互の絆がさらに深まるよう研修センターの一員として一生懸命頑張りたいと思います。今後とも、よろしくお願いたします。

## お知らせ

## 平成28年度 研修実施計画について

## 日本下水道事業団研修センター

日本下水道事業団研修センターでは、「第一線で活躍できる人材の育成」を目標に、下水道のライフサイクルを網羅する6コースを設定し、専門的な知識が習得できる各種専攻を計画しております。

平成28年度の研修実施計画は、昨今の下水道行政の動向や平成28年度研修参加意向調査（アンケート）の結果を踏まえ、下記のような専攻の新設及び内容や開催方法の見直しを行うことといたしました。

また、こうしたコースの他にも下水道事業に関するタイムリーなトピックを反映した研修を臨時研修として適宜実施するとともに、事業団の主催による地方都市で開催する地方研修、地方公共団体等の要請による講師の派遣依頼等にも対応していますので、ご希望がございましたら研修センター（TEL 048-421-2692）までお気軽にご相談ください。お待ちしております。

## 1. 新設専攻

コース名	専攻名	期間 (日)	内 容
計画設計	『浸水シミュレーション演習』	1	流出解析モデルの解説とシミュレーションソフト（Info Works）を使用した実践的演習
	『アセットマネジメント計画・実践編』	3	アセットマネジメントシステムの導入と先端的な取組みを含めたアセットマネジメントの実践
	『下水道事業におけるエネルギー利用』	2	下水道施設における熱エネルギー活用、下水汚泥の再生利用
	『新しい事業計画入門』	2	新しい事業計画の策定に係る基本的事項の習得

## 2. 内容の見直し（主なもの）

コース名	専攻名	期間 (日)	変更内容
計画設計	『アセットマネジメントと下水道ストックマネジメント計画』	3	下水道ストックマネジメント支援制度に基づくストックマネジメント計画の策定に役立つ内容に再編
経 営	『効果的な包括的民間委託の導入と課題』	4	効果的な委託の実施を目指し、豊富な事例に基づく、より実務に役立つ内容に再編
実施設計	『排水設備工事の実務』	4	排水設備工事全般に渡る知識と指定工事店への適切な指導に役立つ内容に再編
維持管理	『管きよの維持管理』	12	管きよの点検・調査に関する最新の動向を踏まえた内容に再編
	『管きよの点検・調査』	5	管きよの点検・調査に関する最新の動向を踏まえた内容に再編

平成28年度 研修実施計画

【戸田研修】

コース	専攻名	職員区分	クラス	研修期間	研修回数	定員	総定員	受講料(円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
計画設計	下水道事業入門	官	初	4	1	20	20	128,200												
	下水道事業の計画の策定・見直し	官	中	5	1	30	30	139,700			12.17									
	総合的な雨水対策	官	中	5	1	40	40	139,700							2.29	2.28				
	● 浸水シミュレーション演習	官	特	1	1	20	20	29,800												
	■ アセットマネジメントと下水道ストックマネジメント計画	官	中	3	1	50	50	116,800												
	● アセットマネジメント計画の実践編	官	特	3	1	50	50	116,800												
	● 下水道事業におけるエネルギー利用	官	中	2	1	20	20	69,500							1.15-1.16					
	● 下水道事業における地震対策	官	特	4	1	15	15	128,200												
	● 新しい事業計画入門	官	初	2	1	40	40	99,500			12.13									
	● 初層的な包括的民間委託の導入と課題	官	中	4	1	10	10	128,200												
経営	下水道の経営	官	中	4	1	10	10	128,200												
	企業会計一移行の準備と手続き	官	中	5	3	35	105	139,700												
	消費税	官	中	5	1	30	30	139,700												
	下水道使用料	官	中	4	1	10	10	128,200												
	受益者負担金	官	中	5	1	20	20	139,700												
	滞納対策	官	特	4	1	10	10	128,200												
	接続・水酸化促進と情報公開	官	中	5	1	10	10	139,700												
	管きよ設計I	官	初	12	4	30	120	194,700												
	管きよ設計II	官	中(特)	17	5	25	125	222,000												
	推進工法	官	中	10	2	20	40	174,000												
実施設計	管更生の設計と施工管理	官	中	5	2	25	50	139,700												
	設計照査(会計検査)	官	中	5	1	20	20	139,700												
	管きよの液状化対策	官	特	4	1	25	25	128,200												
	■ 排水設備工事の実務	官	特	4	1	15	15	128,200												
	● 処理場設計I	官	初	4	1	15	15	128,200												
	● 処理場設計II	官	中(特)	12	1	25	25	194,700												
	● 処理場設備の設計(繊維設備)	官	中	5	1	45	45	139,700												
	● 処理場設備の設計(電気設備)	官	中	5	1	25	25	139,700												
	● 設備の長寿化計画	官	中(特)	3	1	20	20	116,800												
	工事管理	管きよの維持管理	官	初	12	2	15	30	185,500											
● 管きよの点検・調査		官	特	5	1	15	15	139,700												
● 処理場管理I(構築編)		官	初	3	2	20	40	116,800												
● 処理場管理I(構築編+実習編)		官	初	10	2	25	50	174,000												
● 処理場管理I(実習編)		官	中(特)	5	2	5	10	57,200												
● 処理場管理II		官	中(特)	10	2	25	50	174,000												
● 電気設備の保守管理		官	中	3	1	15	15	116,800												
● 水質管理I		官	初	10	1	15	15	174,000												
● 水質管理II		官	中	5	1	10	10	139,700												
● 水質管理III		官	特	5	1	10	10	139,700												
維持管理	● 事業場排水対策	官	中	10	1	20	20	174,000												
	● 包括的民間委託における履行確認	官	特	2	1	20	20	59,500												
	● 水処理施設の管理指標のほかし方	官	特	2	1	20	20	59,500												
	● 水質管理のトラブル対応	官	特	2	1	10	10	59,500												
	● 下水道国際水ビジネス・国際展開	官	特	1	1	10	10	29,800												
	● 管きよの点検・調査	官	初	3	2	20	40	116,800												
	● 処理場管理I(構築編)	官	初	3	2	20	40	116,800												
	● 処理場管理I(構築編+実習編)	官	初	10	2	25	50	174,000												
	● 処理場管理I(実習編)	官	中(特)	5	2	5	10	57,200												
	● 処理場管理II	官	中(特)	10	2	25	50	174,000												

●は、新設講座  
■は、リニューアル講座

(注) 1. 受講料の他に受講費として1名あたり4,400円(消費税別)が必収になります。  
2. クラス名の初・中・特は、初級クラス・中級クラス・上級クラスを、特級クラスを、指定講座を指します。  
3. 「官」のコースは地方公共団体職員のみを対象、「官民」のコースは地方公共団体職員及び民間事業者を対象としたコースです。  
(なお、「処理場管理I」「処理場管理II」専攻は、ともに第1回が「管の点検」、第2回が「管の点検」となります。)  
4. 各専攻とも申込者が10名を下回る場合には、開催しない場合がありますので予めご了承ください。  
5. 「処理場管理I(構築編)」の受講に当たっては、事前に当該専攻の講義編を受講していることが条件となります。

## 研修センターのあゆみ

昭和 47年	11・1 初代研修部長 岩崎 保久就任	平成 6年	7・1 第10代本部長 小林 紘就任
			10・7 研修修了生2万5千人達成
昭和 48年	2・6 研修部で研修開始	平成 7年	7・5 総合実習棟竣工
	5・ プレハブ校舎完成		
	12・27 試験研修本館着工		
昭和 49年	1・16 研修会報(研修みずのわ)創刊	平成 8年	4・1 第12代研修部長 竹石 和夫就任
	12・1 第2代研修部長 丸山 速夫就任		
昭和 50年	3・25 試験研修本館竣工	平成 9年	3・20 本館改修工事竣工
	4・16 初代試験研修本部長 池田 一郎就任		9・29 研修修了生3万人達成
	8・1 日本下水道事業団発足		11・1 事業団設立25周年を迎える
		平成 10年	3・24 研修業務報告会開催
昭和 51年	3・14 第1回下水道技術検定試験実施		7・14 第11代本部長 黒沢 宥就任
	8・1 第3代研修部長 橋本 定雄就任		8・1 参与 内田 信一郎就任
	11・21 第2回検定試験実施(以後毎年11月 中旬実施)	平成 11年	4・1 第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
昭和 52年	2・16 第3代本部長 上田 伯雄就任	平成 12年	6・30 研修修了生3万5千人達成
	4・1 第4代研修部長 武田 篤夫就任		7・3 第14代研修部長 渡部 春樹就任
昭和 53年	4・1 第4代本部長 遠藤 文夫就任	平成 13年	1・20 第12代本部長 中橋 芳弘就任
	11・16 常任参与 安田 靖一就任		4・16 参与 福智 真和就任
昭和 54年	6・9 第5代研修部長 野端 利治就任	平成 14年	4・1 第15代研修部長 篠田 孝就任
			11・1 研修修了生4万人達成
			事業団設立30周年を迎える
昭和 55年	10・1 第5代本部長 卜部 壮一就任	平成 15年	4・16 参与 色摩 勝司就任
			10・1 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
昭和 56年	3・31 研修修了生(延べ)7,603人となる	平成 16年	4・1 機構改革により「研修センター」発足
			第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
昭和 57年	6・5 第6代研修部長 伊阪 重信就任	平成 17年	4・1 第17代研修センター所長 成田 愛世就任
	11・1 事業団設立10周年を迎える		8・1 第13代本部長 安藤 明就任
昭和 58年	4・1 常任参与 藤井 秀夫就任		10・21 研修生4万5千人達成
	8・29 研修修了生1万人達成	平成 19年	4・1 第18代研修センター所長 高島英二郎就任
	11・16 第6代本部長 中村 瑞夫就任		
昭和 59年	4・12 試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。	平成 20年	1・19 研修修了生5万人達成
	4・27 第1回「研修部OB会」開催		1・30 研修修了生5万人達成記念行事開催
昭和 60年	1・1 第7代研修部長 真船 雍夫就任	平成 21年	7・14 第19代研修センター所長 藤生 和也就任
	3・27 新厚生棟完成		
昭和 61年	4・25 第2回「研修部OB会」開催	平成 22年	4・1 第14代本部長 村上 孝雄就任
	10・1 第7代本部長 苦米地 行三就任		4・22 研修修了生5万5千人達成
昭和 62年	3・31 研修修了生(延べ)14,311人となる		6・10 本館耐震化工事着手
			8・3 研修業務検討委員会設置
昭和 63年	1・1 第8代研修部長 石川 廣就任		3・11 東日本大震災
	4・1 第8代本部長 千葉 武就任	平成 23年	4・1 機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、 研修・国際担当理事を設置。
	4・28 第3回「研修部OB会」開催		初代理事 村上 孝雄就任
平成 元年	9・1 常任参与 村上 仁就任		4・1 国際展開コース新設
			9・21 臨時研修「地震対策」実施
平成 2年	3・31 本館改修工事竣工	平成 24年	4・17 研修修了生60,000人達成
	6・11 第9代研修部長 亀田 泰武就任		11・1 事業団設立40周年を迎える
	10・8 第4回「研修部OB会」開催		11・22 臨時研修「放射能対策」実施
平成 3年	7・16 第10代研修部長 石川 忠男就任		3・29 本館耐震化工事終了
	7・26 研修修了生2万人達成	平成 25年	4・1 第20代研修センター所長 藤本 裕之就任
平成 4年	4・1 第9代本部長 清野 圭造就任		11・1 第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
	4・1 第11代研修部長 星隈 保夫就任	平成 26年	4・1 第21代研修センター所長 花輪 健二就任
	11・1 事業団設立20周年を迎える		
平成 5年	3・26 第5回「研修OB会」開催	平成 27年	11・1 第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲 就任
	7・1 常任参与 北井 克彦就任		



## 機関誌「みずのわ」第49号

平成28年2月発行 第49号

発行／地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター  
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141  
TEL：048-421-2692  
FAX：048-422-3326

印刷／株式会社 サンワ